

議論を構造化するエージェント型ファシリテーションシステムの開発 — Recogra : ファシリテーターを支える可視化 —



Recogra

タイムライン	議点マップ	まとめ画像
グループA 0 グループB 14		
成果物の整理と再利用 ・ワークショップ後の振り返りに活用 ・議論の記録が組織の知的資産に ・次の行動につながる形で残る	グループA 15:31 ワークショップが終わった後も、まとめ画像をSlackに貼って振り返り使える。議論の成果物が組織の資産として残るのが大きい	
ファシリテーターの本質支援への集中 ・情報把握の負担が減り、人間関係に集中できる ・場の空気を捉え余裕が生まれた ・ツールが「裏方」に徹する設計が成功	グループB 15:32 住民協議会で使ったら、10代~70代の参加者のうち80%が「イラストまとめが有効」と回答。「とても理解できた」という声が増えた	
グループ間の比較・統合 ・画像の横並びで差異と共通点を即座に把握 ・全体共有の質が大幅に向上 ・ファンリが次の問いを設計しやすい	グループC 15:37 フォードバックで特に大きかったのは、ファシリテーターが空気や人間関係など「人間にしがたできない本質支援」に専念できるようになったという点	
リモート参加と的確な介入 ・物理的な移動なしで全グループの文脈を把握 ・巡回・介入の判断が的確に ・ファシリテーターの負担を大幅に軽減	グループD 15:33 横断者や全体共有の時に直近の文脈を理解できるので、議点のズレを修正しやすい。要点的な深掘りも的確にできるようになった	
	グループE 15:31 各組の状況がリアルタイムで見えるから、物理的に移動しなくてもグループ間の刺激になっている。「何は聞話してたの？」がすぐわかる	
	グループF 15:31 報告者の負担も減った。画像を見せながら「これうちのグループの結論です」と言えば十分伝わる。3分の持ち時間でも30分の議論を共有できる	
	グループG 15:38 各グループの画像を並べると、アプローチの違いや共通点が一目でわかる。全体共有の時間で	

タイムライン

議点マップ

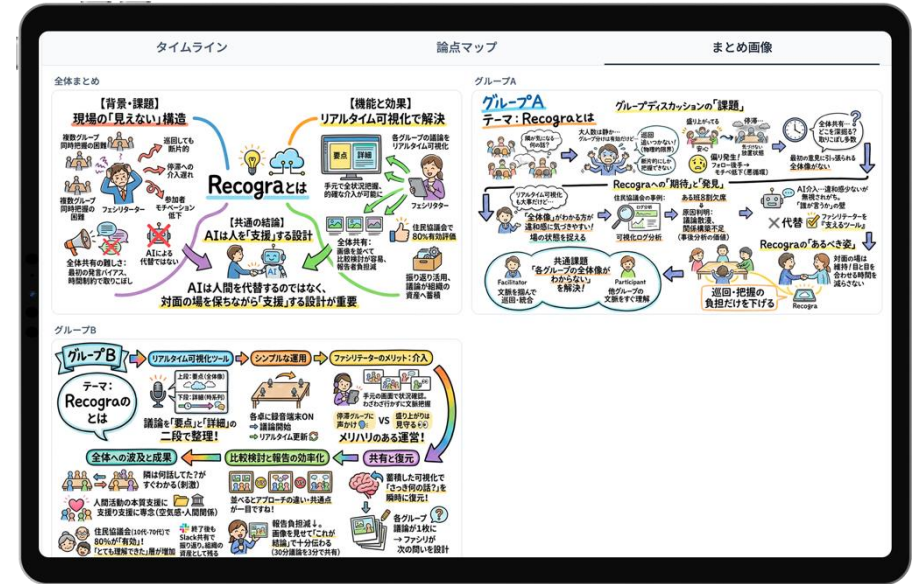
まとめ画像

何が議論されているか見えにくい
グループディスカッションを
リアルタイムに可視化

リアルタイム可視化による文脈把握

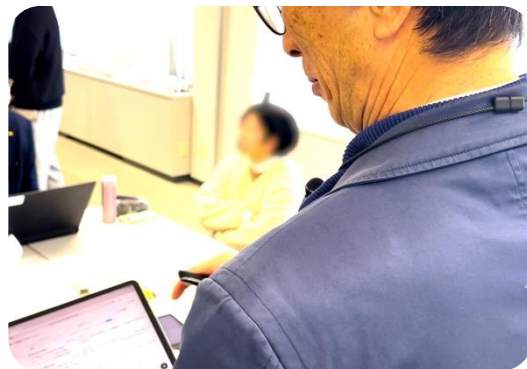
イラストまとめによる全体共有

タイムライン	論点マップ	まとめ画像
グループA 0	グループB 14	
成果物の蓄積と再利用 ・ワークショップ後の振り返りに活用 ・議論の記録が組織の知的資産に ・次の行動につながる形で残る	グループB ワークショップが終わった後も、まとめ画像をSlackに貼って振り返りに使える。議論の成果物が組織の資産として残るのが大きい	19:31
ファシリテーターの本質支援への集中 ・情報把握の負荷が減り、人間関係に集中できる ・場の空気を読む余裕が生まれた ・ツールが「裏方」に徹する設計が奏功	グループB 住民協議会で使ったら、10代~70代の参加者のうち80%が「イラストまとめが有効」と回答。「とても理解できた」という層が増えた	19:29
グループ横断の比較・統合 ・画像の横並びで差異と共通点を即座に把握 ・全体共有の質が大幅に向上 ・ファシリが次の問いを設計しやすい	グループB フィードバックで特に大きかったのは、ファシリテーターが空気や人間関係など「人間にしかできない本質支援」に専念できるようになったという点	19:27
リモート把握と的確な介入 ・物理的な移動なしで全グループの文脈を把握 ・巡回・介入の判断が確信に ・ファシリテーターの負荷を大幅に軽減	グループB 傍聴者や全体共有の時に直近の文脈を理解できるので、論点のズレを修正しやすい。要点の深掘りも的確にできるようになった	19:25
	グループB 各班の状況がリアルタイムで見えるから、物理的に移動しなくてもグループ間の刺激になっている。「隣は何話してたの？」がすぐわかる	19:23
	グループB 報告者の負担も減った。画像を見せながら「これがうちのグループの結論です」と言えば十分伝わる。3分の持ち時間でも30分の議論を共有できる	19:21
	グループB 各グループの画像を並べると、アプローチの違いや共通点が一目でわかる。全体共有の時間で	19:19



各グループの議論を時系列に沿って「要点」と「詳細」の2層で整理

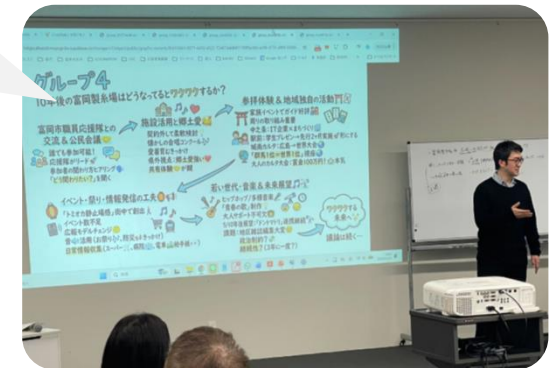
代表者の発表では省略されがちな少数意見や議論を直感的に共有



田原本町 住民協議会

自分たちの対話がイラストになる驚きと楽しさがあった

場の空気や人間関係の観察に専念できた



富岡市 住民協議会